学校法人中越学園
長岡大学

令和3年度 学生による地域活性化プログラム

生島義英ゼミナール活動報告書

長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る

～イベントプロジェクト～

11
令和3年度

ご あ い さ つ

長岡大学 学長　村山　光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、３、４年次の専門ゼミナールに所属する学生グループが、地域課題の解決や地域の魅力創出に向けた調査研究と具体的な活動を行うことにより、学生の職業人としての基礎的能力向上と地域活性化への貢献を同時に目指すプログラムです。本プログラムは 2007（平成 19）年度に導入してから、これまで十数年に渡り継続しながら発展してきた本学の特徴的な教育プログラムの一つであります。最近は、取り組みの中心でもある地域の現場における学生の諸活動を新聞やテレビ、ラジオ等のメディアでも取り上げていただく機会も増えてきました。また、これまで本プログラムの運営に多大なるご支援ご協力をいただいてきた地域連携アドバイザーをはじめ地域の皆様から、これらの取り組みに対する激励のお言葉をいただいております。長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。

「地域活性化とは」という問いに対する明確な答えを述べることはなかなか難しいのですが、本プログラムでは、答えのない様々な地域課題に対して、それら課題の原因をどのように捉え、どのように行動を起こして対応していくのかについて、学生が自ら体験することができます。卒業後には地域社会の一員となる学生たちが、将来、各職場や地域コミュニティの中にあるそれぞれの地域課題に取り組むことになると考えると、これらの体験は彼らにとって大変貴重なものとなることでしょう。

本プログラムでは、各ゼミナールで設定したテーマの下で学生グループが活動を進めていくことになりますが、時には一緒に活動する学生同士のちょっとしたすれ違いや地域の大人たちとの意見の食い違い等も起きることがあります。このような体験も学生がさらに一歩、人として成長するためのきっかけとなります。各グループで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者と協力しながら取り組みを進めていくべきなのか、このグループの中での私の役割は何か、などを考えながら活動を行っていくことで、グループで活動することの難しさだけでなく、グループで目標に向かって何かをやり遂げることの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域に飛び込んで地域の皆様と一緒に汗をかき、楽しみ、そして考える中から、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていく事のできる人材の育成を目指しております。本学の建学の精神は、「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための中核となる教育プログラムであると言えます。

本活動報告書は、各取組テーマの調査研究活動の概要とその成果について学生が執筆した報告書を集めて一冊にまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。

なお、本プログラムは「NaDeC 構想推進コンソーシアム産学協創ワーキング」から補助をいただいたことを申し添えます。

2022 年３月

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE
since 2004
II UNIVERSITY
2016

長岡大学は、文部科学大臣の認証を受けた『公益財団法人日本高等教育評価機構』により、平成28年度大学機関別認証評価を受審し、平成29年３月７日、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると「認定」されました。

はじめに

「長岡市摂田屋の魅力を高め，観光客を増やし，地域活性化を図る」～イベントプロジェクト～

長岡大学准教授／ゼミ担当教員　生島　義英

本ゼミナールは、４年生 13 名，３年生４名，合計 17 名により，「長岡市摂田屋の魅力を高め，観光客を増やし，地域活性化を図る」をテーマに掲げゼミナール活動を実施した。

本ゼミナールでは「歴史ある醸造のまち」長岡市摂田屋地区に焦点を絞り，この地域における「観光まちづくり」をどのようにすれば地域の活性化が図れるのかを調査・研究することにある。

昨年度の活動は，摂田屋地区の現状を調査・分析し，この地域の課題を明らかにした。今年度は抽出した地域の課題に対する解決策を検討し，ゼミナールを「情報発信プロジェクト」,「イベントプロジェクト」の２つに分割し，課題解決の具体的な活動に取組んだ。

「イベントプロジェクト」では, 前年度の活動でSWOT 分析による摂田屋が解決すべき課題の中から，現在の状況を踏まえ，以下の５つを取り上げた。

①(観光・弱み）案内所やマップ，看板が少なく，摂田への行き方，摂田屋の回り方がわかりづらい

②(歴史・弱み）摂田屋の歴史に詳しい人がいないと，摂田屋の面白さや魅力が伝わりづらい

③(観光・弱み）摂田屋の歴史と観光地としての知名度が低い

④(産業・弱み）企業における SNS の活用・情報発信が少ない

⑤コロナウイルス感染拡大の影響により大勢の人が集まるイベントを開催できない。

「イベントプロジェクト」のテーマは，摂田屋の知名度を上げ，摂田屋の魅力を活かしたイベントを行うである。新型コロナウイルス感染拡大の影響で大人数を集めたイベントを行うことが困難なため人が集まることなく開催が可能なイベントを行う。以上のことから摂田屋フォトコンテストを開催した。

学生自らの力で，フォトコンテストの企画・ちらしづくり・賞品の協賛・展示会開催などに真摯に取り組み，その結果，フォトコンテストを実施し，摂田屋米蔵で展示会を開催することができた。これはひとえに学生諸君が積極的かつ能動的に行動した成果であると言える。

今年度の取組みにおいて，アドバイザーであるミライ発酵本舗株式会社　平沢政明様，ならび長岡市観光・交流部観光企画課　小林隆様には大変貴重なアドバイスを多々いただきました。また，快く賞品を提供いただきました摂田屋地区の事業者の皆様にこの場を借り，深く謝辞の意を表します。

来年度は，更なる摂田屋地区の活性化を目指した活動に取組み，成果を得ていきたいと考える所存である。

2022 年３月

生島義英
ゼミナール

長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る イベントプロジェクト

【参加学生】 ８名(４年生６名、３年生２名)
４年生 岩城優希、岡田大輝、小池慎一郎、小海友希、
高橋凜、中村瑞穂
３年生 青山竜也、平山瑠伽

【アドバイザー】
長岡市 観光・交流部 観光企画課 課長補佐 小林 隆 氏
ミライ発酵本舗株式会社 統括マネージャー 平沢政明 氏

【イベントプロジェクト】

【摂田屋フォトコンテストの開催】

イベントプロジェクトでは，前年度の活動で SWOT 分析による摂田屋が解決すべき問題点の中から，以下の５つを取り上げた。

① （観光・弱み）案内所やマップ，看板が少なく，摂田への行き方，摂田屋の回り方がわかりづらい
② （歴史・弱み）摂田屋の歴史に詳しい人がいないと，摂田屋の面白さや魅力が伝わりづらい
③ （観光・弱み）摂田屋の歴史と観光地としての知名度が低い
④ （産業・弱み）企業における SNS の活用・情報発信が少ない
⑤ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により大勢の人数が集まるような大規模のイベントを行うことができない。

以上のことから今年度はイベントプロジェクトと情報発信プロジェクトに分かれ活動を行った。

【プロジェクトテーマ】

イベントプロジェクトのテーマは，摂田屋の知名度を上げ，摂田屋の魅力を活かしたイベントを行う。新型コロナウイルス感染拡大の影響で大人数を集めたイベントを行うことが困難な為人が集まることなく開催が可能なイベントを行う。よって，「摂田屋フォトコンテスト」開催を企画し実行した。

【摂田屋フォトコンテストの結果】

今回のフォトコンテストでは,計 10 名の２８作品の応募があった。目標は 50 名だったが今回のフォトコンテストでは遠く及ばない 10 名という結果となった。年齢は,20 代～80 代と幅広い世代からの応募があった。応募していただいた方々は,地元の長岡市から新潟市など県内の様々な地域からの募集があった。

コロナ禍の影響を考え，審査後の入選作品は情報発信プロジェクトが運営する Instagram でのみの発表予定であった。しかし９月の中間報告の際，平沢様の方から「SNS 以外での発表はしないのか」とアドバイスを頂き，プロジェクトメンバーと話し合い，徐々に新型コロナウイルスの感染拡大が収まりつつあることから展示会行うことを決定した。アドバイザーの平沢政明様と連絡を取り，展示の下見や展示に関する事を打ち合わせし，2021 年 12 月 1 日から 12 月 15 日の 15 日間，優秀作品の展示会を摂田屋米蔵で開催した。あわせて 11 月 25 日情報発信プロジェクトの Instagram で情報発信した。

【結論】

作業をする時間は十分に取ることをできたが，なかなか行動に移すことができなかった。より良いフォトコンテストを開催しようとする意識が空回りし，プロジェクト内で齟齬が生じてしまったことが今回の応募数につながってしまったのではないかと考える。しかし、フォトコンテストについてアドバイスをくださる方の助言を大切にし，次に活かしていきたい。また失敗も多々あったが収穫もあった。今回のイベント開催で得た最大のメリットとしては，学生の力でこのようなイベントを開催することができたことを経験することができたことである。

長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る

～イベントプロジェクト～

生島義英ゼミナール
イベントプロジェクト

参加学生
18ｋ013　岩城　　優希
18ｋ023　岡田　　大輝
18ｋ037　小池　慎一郎
18ｋ040　小海　　友希
18ｋ066　高橋　　凛
18ｋ093　中村　　瑞穂
19ｋ002　青山　　竜也
19ｋ094　平山　　瑠伽

目　　次

1. はじめに…… 1
1.1 研究動機・目的 …… 1
1.2 報告書構成 …… 1
1.3 2020 年度の取り組み…… 1
1.4 課題抽出 …… 6

2. ボランティア活動…… 7
2.1 ボランティア活動の概要 …… 7
2.2 機那サフラン酒本舗公開スタッフ …… 7
2.3 清掃ボランティア …… 15
2.4 ライトアップコンサート …… 19
2.5 まとめ …… 21

3. イベントプロジェクト概要…… 21
3.1 フォトコンテストの概要 …… 21
3.2 協賛お願いの活動内容 …… 22
3.3 摂田屋フォトコンテストポスターの作成 …… 23
3.4 フォトコンテストの取材 …… 26
3.5 フォトコンテストの結果 …… 28
3.6 応募結果 …… 28
3.7 応募作品 …… 29
3.8 フォトコンテストでの反省点 …… 34
3.9 フォトコンテストでの考察 …… 34

4. 摂田屋フォトコンテストの展示会…… 35
4.1 展示会を行うまでの経緯 …… 35
4.2 展示会の様子と展示の修正 …… 35
4.3 展示会の改善と反省 …… 37

5. おわりに…… 39
5.1 考察 …… 39
5.2 反省点・改善点 …… 40
5.3 来年度に向けての活動計画案（反省点・改善点）…… 40

参考文献…… 41

長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る。

～イベントプロジェクト～

1.　はじめに

1.1　研究動機・目的

長岡市の衰退を止め、地域を活性化する活路のひとつとして考えられることは、観光客を増加させ交流人口を増大させ、観光振興を図ることが重要な方策である。すなわち「観光まちづくり」による長岡市の活性化を図ることと考える。

本ゼミナールの研究では「歴史ある醸造のまち」長岡市摂田屋地区に焦点を絞り、この地域における「観光まちづくり」をどのように進めれば地域の活性化が図れるのかを研究することである。以上が研究動機である。

研究目的は、「長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る。」をテーマに掲げ、「観光まちづくり」により長岡市の地域活性化を図ることである。

1.2　報告書構成

1.はじめにでは、1.1 研究目的・動機、1.2 報告書構成、1.32020 年の取り組み、1.4 課題抽出で。2.ボランティア活動では、2.1 ボランティア活動の概要、2.2 機那サフラン酒本舗公開スタッフ、2.3 清掃ボランティア、2.4 ライトアップコンサート、2.5 まとめ。3.イベントプロジェクト概要では、3.1 フォトコンテストの概要、協賛お願いの活動内容、3.3 ポスターの作成 3.4 フォトコンテストの取材、3.5 フォトコンテストの結果、3.6 フォトコンテストの考察、3.7 応募作品、3.8 フォトコンテストでの反省点 3.9 フォトコンテストでの考察。4.フォトコンテスト展示会では、4.1 展示会のポスター作成 4.2 展示会の様子 4.3 展示会の反省点・改善点。5.終わりに 5.1 考察 5.2 反省点・改善点 5.3 来年度に向けての活動。
参考文献、以上が報告書の構成である。

1.3　2020 年度の取り組み

（1）現地調査

2020 度の活動は、現地調査と現状分析を行った。現地調査では摂田屋に赴き調査を行い、調査で分かったことを摂田屋マップに落とし込み、摂田屋の現状、魅力、課題を明らかにした。

下記「図 1-1」は摂田屋の風景や企業をまとめたものである。摂田屋は宮内駅を出て、右にある宮内商店街を歩いた先にある。摂田屋は幕末の戊辰戦争や第二次世界空襲（長岡空襲）の被害を免れたため江戸時代から残る歴史的な建造物が多く現存している。

摂田屋には酒、醤油、味噌などを製造する企業や蔵元が 6 軒ある。また、それぞれの蔵元

が登録有形文化財となっている。

広い敷地と大正ロマンを思わせる機那サフラン酒本舗は、代表的な鏝絵をはじめ約 9000 ㎡の広大な敷地にある 10 棟の敷地内建造物も登録有形文化財に指定された。

また、摂田屋の観光・文化事業によって機那サフラン酒本舗敷地内の改装工事が進めてられている。2020 年 10 月に米蔵は新しく情報拠点、売店機能を携えた施設としてオープンした。今後観光拠点として長岡市により「主屋」「離れ座敷」、蔵などが整備される予定である。

摂田屋は住宅街であり、観光地であると同時に生活感のある空間である。路地が多く入り組んだ地形となっており、はじめて訪れた方にとっては迷いやすいかもしれない。

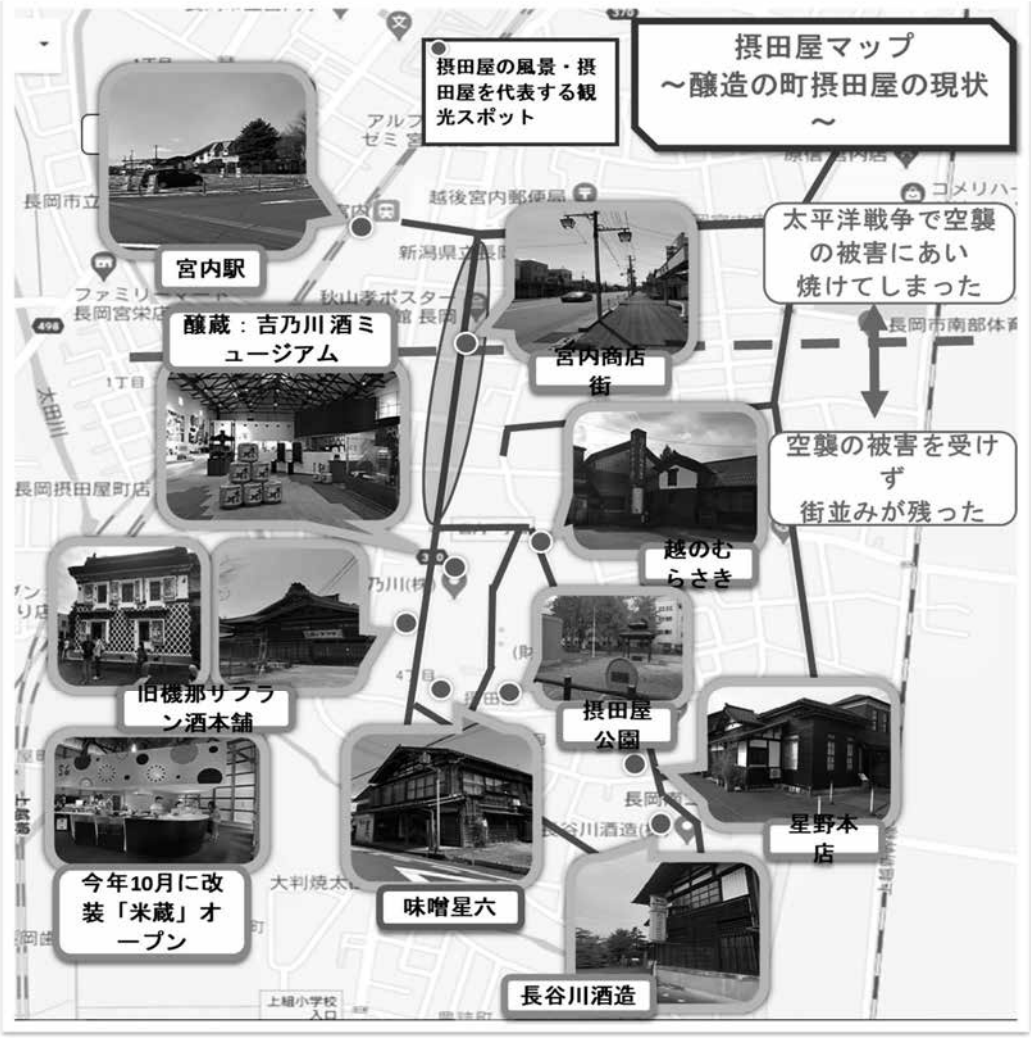

図 1-1　摂田屋の現状調査マップ

下記「図 1-2」は現地調査を経て、魅力に感じたポイントをマップにまとめたものである。

越のむらさき付近では醤油の香りが観光客を迎えてくれる。宮内商店街付近には、生姜醤油ラーメンが有名である青島食堂や、老舗の食堂が立ち並ぶ。青島食堂は普段から学生や社会人で賑わっている人気店である。それらの変わらない味を守る飲食店が、同じ地域にある

醸造企業と相まって摂田屋に懐古な雰囲気を出しており、摂田屋の持ち味となっている。摂田屋は戊辰戦争と第二次世界大戦空襲(長岡空襲)をくぐり抜け江戸時代から残る三国街道や、日露戦争の忠魂碑があり歴史を感じるものがある町並みとなっていることが特徴である。

機那サフラン酒本舗は 10 棟の敷地内建物すべてが国の登録有形文化財となっている。近年、吉乃川の常蔵を改装した「醸造:吉乃川酒ミュージアム」があり、なっている中ではクラフトビールを作るところを見学でき、吉乃川の歴史を観覧できる展示ブース、飲み放題サービスと充実した内容となっている。

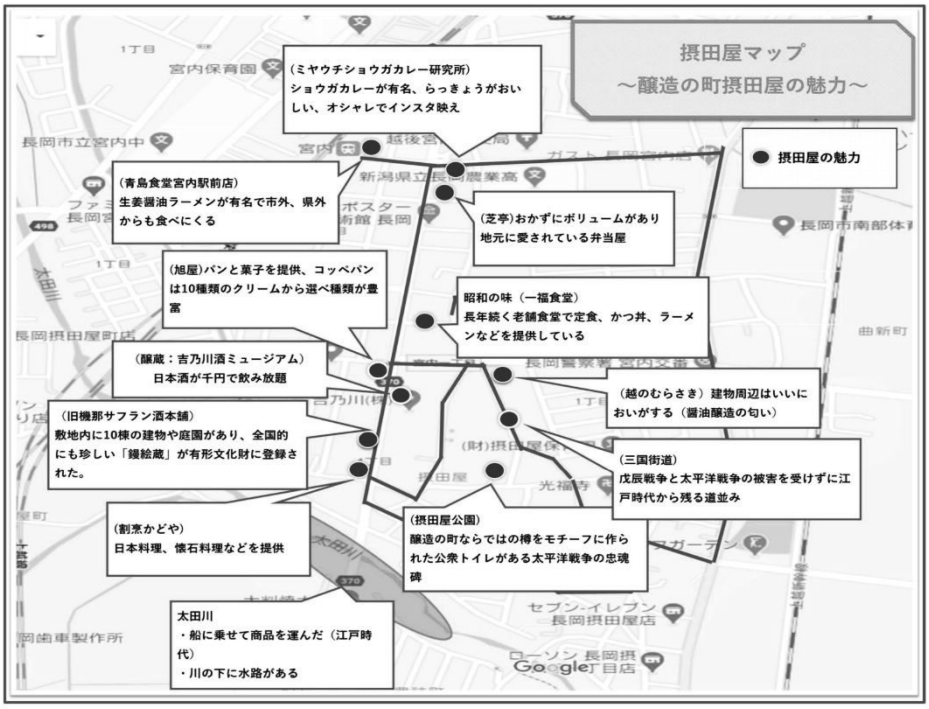

図 1-2 摂田屋の魅力まとめマップ

「図 1-3」は現地調査の結果、改善が必要であると考える要素をマップにまとめたものである。

注目してほしいのは、宮内駅、宮内商店街付近である。観光地化が進み、観光客が多く訪問すると考えた場合、宮内駅の設備の希薄さが目立った。また、トイレの美化が必要であるという意見も挙がった。

摂田屋では、越後交通のバスが運行されている本数が少なく、宮内駅から商店街を歩いて向かう人も多いと予想される。だが、現在の商店街は土日に閉店している店が少なく賑わいを感じることができない。

また、摂田屋を観光するうえで必要なマップから少ないことに注目した。マップは主に宮内駅と越のむらさき主屋前にあるのみであり、地域を観光する際にはスマートフォンの

地図を使用する必要が見込まれた。数ある課題の中でも、我々は摂田屋を関する説明をしてくれる人が常にいるわけではないという点が課題として強く感じた。機那サフラン酒本舗の鏝絵蔵内の展示物を始め、地域の歴史について摂田屋を見てみて回る際には摂田屋に詳しい人がいなければ面白さや魅力が伝わりづらいと感じた。しかし、説明でいる人が少ないこと、人材不足から人手による解決は困難と考えられる。

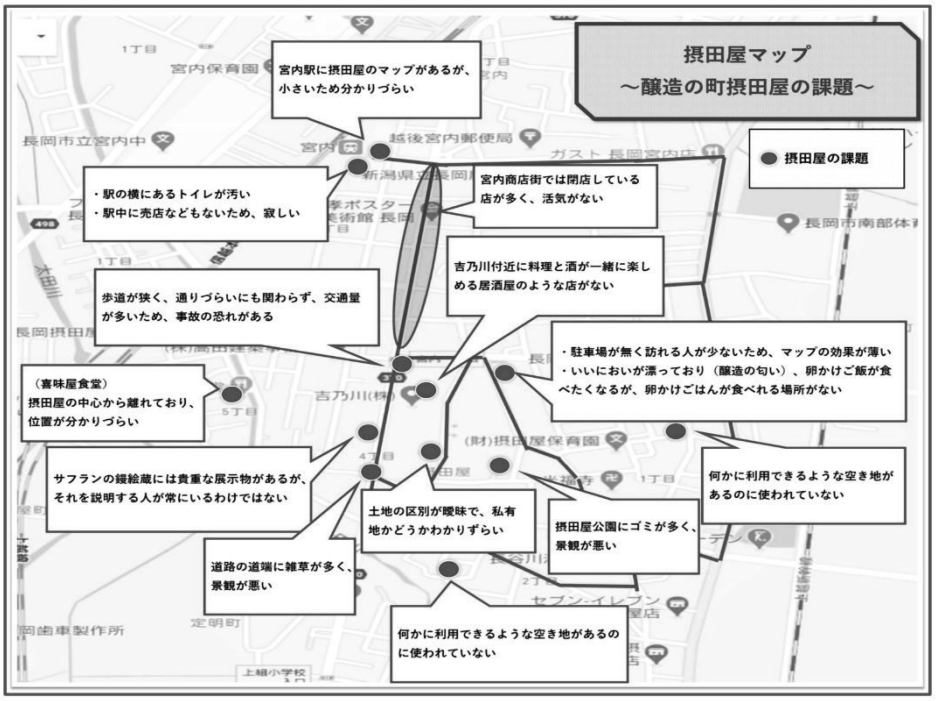

図 1-3　摂田屋の課題マップ

（2）SWOT 分析

摂田屋での現地調査、現状マップをもとに摂田屋の SWOT 分析を行った。（表 1-1）SWOT 分析とは、対象地域を内部要因である強みと弱み、外部要因である機会と脅威の 4 つの軸から評価する手法である。内部要因を産業、文化歴史、観光の 3 つの視点から評価した。次に外部要因では PEST 分析のフレームワークを利用して、政治的要因、経済的要因、社会的要因、技術的要因の視点から分析を行った。

内部要因の強みとして、産業の視点から、「酒、みそ、しょうゆなどの醸造業が発達し集積している」、「みそ、しょうゆなどの発酵をベースとした製品を生産している」、「日本酒がおいしい」が挙げられる。文化歴史の視点から、「機那サフラン酒本舗の鏝絵蔵や旧三国街道などの歴史的な建造物、街並み、街道が多く残っている」、「周りやすい地形、地元のアーティストと産業のコラボレーションが期待できる」などが挙げられる。

次に弱みでは、産業の視点から、「人手不足により観光客が増えたときに対応できない」、

「しょうが醤油ラーメンで有名な青島食堂などはあるが食べ歩きできる名物が少ない」が挙げられる。文化歴史の視点から、「摂田屋に関する知名度が低い」、「摂田屋の歴史に詳しい人がいないと面白さや魅力が伝わりづらい」が挙げられる。観光の視点から、「長岡駅からのアクセスが良くない」、「案内所やマップ、看板が少なく、摂田屋への行き方、摂田屋の周り方がわかりにくい」、「道が狭いうえに交通量が多くて危険を感じる。宮内駅から摂田屋の中心地まで距離がある」、「酒をメインにしているので家族連れで遊べるところがない」、「非公式マスコットキャラクター「せったぽん・おけじい」はいるが着ぐるみがなく知名度もない」などが弱みとして挙げられる。

外部要因の機会は、政治的要因の視点から「長岡市の政策として機那サフラン酒跡地を拠点として観光地の整備をしている」が挙げられる。経済的要因の視点から、「ステイホームでの動画サービスの需要の増加」、「ビーガンコスメの注目」が挙げられる。社会的要因の視点から「長岡市のイベントや地域が注目されている」、「有名人の知名度による集客力」、「コロナ禍での料理ブーム」、「大学内に様々な活動をしているゼミナールがある」、「コスプレイヤーの増加」などが挙げられる。技術的要因の視点から、「長岡農業高校。SNS の普及。携帯電話の普及」などが主な機会として挙げられる。脅威では、経済的要因の視点から、「若者の日本酒離れ」、「少子化による人手不足での地域産業の衰退」などが挙げられる。社会的要因の視点から、「若者が商業施設に行ってしまう」などが主な脅威として挙げられる。

表 1-1　SWOT 分析

SWOT 分析のまとめ		
	ポジティブ	ネガティブ
内部要因	強み	弱み
	①醸造業が発達し、集積している	①人手不足により観光客が増えたときに対応できない
	②発酵をベースとした製品を生産している	②食べ歩きできる名物が少ない
	③日本酒がうまい	③摂田屋に対する知名度が低い
	④歴史的な建造物、街並み、街道が多く残っている（鏝絵蔵、旧三国街道など）	④摂田屋の歴史に詳しい人がいないと面白さや魅力が伝わりづらい
	⑤まわりやすい地形（500m四方に蔵が集中している）	⑤長岡駅からのアクセスがよくない
	⑥地元のアーティストとの産業のコラボレーションが期待できる	⑥案内所・マップ看板が少なく摂田屋への行き方がわかりにくい
		⑦道が狭い上に交通量が多く、危険を感じる
		⑧宮内駅から摂田屋の中心地まで距離がある

		⑨家族連れで遊べるところが少ない
		⑩マスコットキャラクターはいるが実体化と知名度がない
外 部 要因	機会	脅威
	①長岡市の政策として機那サフラン酒本舗を拠点とし	①若者の日本酒離れ
	観光整備している	②少子化による人手不足での地域産業の衰退
	②ステイホームでの動画サービスの需要増加	③若者が商業施設に行ってしまう
	③ビーガンコスメの注目	
	④長岡市のイベントや地域が注目されている	
	⑤有名人の知名度による集客	
	⑥料理ブーム	
	⑦大学内に様々な活動をしているゼミナールがある	
	⑧コスプレイヤーの増加	
	⑨長岡農業高校	
	⑩SNS の普及	
	⑪携帯電話（スマートフォン）の普及	
凡例	内部要因：産業：強み①～③弱み①～②文化歴史：強み④～⑥弱み③～④観光：弱み⑤～⑩	
	外部要因：政治的要因：機会①経済的要因：機会②～③脅威①～②社会的要因：機会④～⑧脅威③技術的要因：機会⑨～⑪	

1.4　課題抽出

イベントプロジェクトでは、前年度の活動で SWOT 分析による摂田屋が解決すべき問題点の中から、現在の状況を踏まえ、以下の 5 つを取り上げた。

① （観光・弱み）案内所やマップ、看板が少なく、摂田への行き方、摂田屋の回り方がわかりづらい

② （歴史・弱み）摂田屋の歴史に詳しい人がいないと、摂田屋の面白さや魅力が伝わりづらい

③ （観光・弱み）摂田屋の歴史と観光地としての知名度が低い

④ （産業・弱み）企業における SNS の活用・情報発信が少ない

⑤ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により大勢の方々が集まるような大規模のイベントを行うことができない。

以上のことから今年度はイベントプロジェクトと情報発信プロジェクトに分かれ活動を行った。

イベントプロジェクトのテーマは、摂田屋の知名度を上げ、摂田屋の魅力を活かしたイベントを行う。新型コロナウイルス感染拡大の影響で大人数を集めたイベントを行うことが困難な為人が集まることなく開催が可能なイベントを行う。以上のことから摂田屋フォトコンテストの開催となった。

2. ボランティア活動

2.1 ボランティア活動の概要

4 月 3 日機那サフラン酒本舗ボランティア雪囲い外し・庭園清掃、6 月 5 日清掃ボランティア（抜いたる隊）・ライトアップコンサート、9 月 25 日ライトアップコンサート、11 月 27 日機那サフラン酒本舗雪囲いのボランティアに参加した。

2.2 機那サフラン酒本舗公開スタッフ

機那サフラン酒本舗公開スタッフとは、4 月から 11 月までの毎週土曜日、日曜日午前 9 時から午後 15 時までの間普段は公開していない庭園と離れ座敷を案内するボランティアである。公開スタッフの案内内容、以下のとおりである。

まず、機那サフラン酒本舗主屋前を案内する。左側が機那サフラン酒本舗の主屋で、右側が鏝絵の蔵である。機那サフラン酒本舗主屋を建てたのは明治から昭和にかけて薬酒製造で成功した機那サフラン酒本舗の創業者吉澤仁太郎である。仁太郎は幕末に隣村（定明村）で生まれ、明治 27 年に摂田屋に移り住み本格的に事業を始めた。その時建てたのが下記「図 2-1」の左側機那サフラン酒本舗主屋の看板建て、この時から仁太郎の普請道楽がスタートした。

図 2-1　機那サフラン酒本舗主屋・鏝絵の蔵

次に鏝絵の蔵を案内する。「図 2-2」の蔵は大正 15 年に建てられた「鏝絵の蔵」である。左官の技で漆喰をコテで塗り重ねレリーフ状にした装飾で全国に見られるが、蔵全体に鏝絵を施し色鮮やかで彫が深く、左官の間では日本一だと言われてきた。
東面には霊獣（空想上の動物）龍・鳳凰・麒麟・玄武が描かれていて鉢巻の部分龍の左隅に作者の河上伊吉のサインがある。
北面と南面 2 階には動物と植物の取り合わせ、内部はおめでたい尽くしで、恵比寿・大黒・鶴・亀が描かれている。

図 2-2　鏝絵の蔵

鏝絵の蔵を見た後は庭園を案内する。仁太郎は庭造りに情熱をかたむけた。休日しか見学できない庭園は、有名な庭師に作らせたものではなく、自らプロデュースしたものである。おびただしい数の石や灯籠を並べ、池を掘り、水を巡らし、山がありトンネルやありの回遊できる楽しい庭である。昔は小学生が遠足に来たこともあるそうだ。（図 2－3）庭園を見た後は衣装蔵を案内する。下記「図 2-4」の蔵は衣装蔵と言い大正 5 年に作られた。最初に鏝絵の技法が取り入れられたこの蔵は内側を含め 8 枚の鏝絵が付いている。
衣装蔵という名前だが、実際には仁太郎が収集した金製品をはじめお宝を納めていた蔵である。その構造は 15ｃｍ間隔で柱を組むというとても頑丈な作りである。建物を覆っている波板鉄板は輸入品で当時は高級建材である。土台の風抜きの取手もかわいい。仁太郎の建築は遊び心に満ちている。（図 2-5）

図 2-3　機那サフラン酒本舗庭園

図 2-4　衣装蔵

図 2-5　衣装蔵土台風抜き取手

庭園、衣装蔵を見た後は離れ座敷である。離れ座敷は昭和 6 年に建てられ、機那サフラン酒本舗建物の中では一番新しい建物のである。棟上げには小判がまかれたことはご近所の伝説である。最近まで離れ座敷はゴミ屋敷状態だったが、ボランティア清掃が続けられており、公開できる状態になった。玄関の屋根は神社仏閣に見られる唐破風様式。

図 2-6　離れ座敷

離れ座敷に上がると廊下が広がっている。廊下は17mあり、5枚のケヤキが使われている。窓の上の桁は杉丸太の1本もので18mある。離れ座敷には廊下に面して1階に3つ2階に3つ部屋があり各部屋にはすべて床の間があり、その床柱やおとしがけにはすばらしい銘木が使われている。

図 2-7　離れ座敷廊下

離れ座敷のガラスは昭和6年のもので波打っている。そして窓枠についているのは杉板に猪の目を彫刻した装飾が付いている。この猪の目は魔よけとしてすべての窓に付けられている。(図 2-8)

図 2-8　ガラス窓　猪の目

図 2-9　機那サフラン酒本舗公開スタッフ 1

図 2-10 機那サフラン酒本舗公開スタッフ 2

図 2-11　機那サフラン酒本舗公開スタッフ 3

図 2-12　機那サフラン酒本舗公開スタッフ 4

2.3　清掃ボランティア

2021 年 4 月 3 日土曜日機那サフラン酒本舗の雪囲い外しと庭園清掃のボランティアに 4 年生 4 名が参加した。ボランティア当日は、晴れており春の日差しの中作業を行った。作業時間は、午前 9 時から 12 までの 3 時間行った。その後 13 時から摂田屋 6 番街発酵ミュージアム・米蔵で機那サフラン酒本舗公開スタッフの研修が行われた。

図 2-13　機那サフラン酒本舗清掃ボランティア庭園清掃

機那サフラン酒本舗の庭園清掃では、枯れ葉をほうきで集め、ブルシートの上に乗せ集めたものを庭園の奥に持って行った。4 月の清掃だったので枯れ葉が庭園全体に多くあった。(図 2-13)

図 2-14　機那サフラン酒本舗清掃ボランティア雪囲い外し

機那サフラン酒本舗の雪囲い外しでは、離れ座敷の雪囲いを外す作業を行った。離れ座敷の雪囲いを上の囲いから外して作業を行ったが、下の囲いになるにつれて外しにかった。（図 2-14）

機那サフラン酒本舗の雪囲い外し・庭園清掃は長岡大学生島ゼミナール学生を含めたくさんの方々が参加し清掃ボランティアが行われた。4 月から機那サフラン酒本舗の公開が始まるため、丁寧に清掃を行った。毎年たくさんの方々が清掃ボランティアの活動に参加し定期的に清掃することで、機那サフラン酒本舗の庭園が維持されているのだと清掃ボランティアに参加して感じた。

図 2-15　機那サフラン酒本舗清掃ボランティア集合写真

図 2-16　清掃ボランティア参加学生集合写真

2021 年 6 月 5 日土曜日機那サフラン酒本舗の清掃ボランティア（抜くいたる隊）に 4 年生 2 名、3 年生 4 名計 6 名で参加した。作業内容は、庭園の清掃、長米蔵駐車場の草取りと取った草を一輪車で運搬する作業である。長岡大学は、米蔵駐車場の草取りと取った草を一輪車で運搬する作業を担当した。米蔵駐車場の草取りは長岡造形大学の学生と一緒に作業を行った。作業時間は 9 時から 12 時までの 3 時間である。ボランティア当日は天候も晴れていたので水分補給をしながら作業を行った。

図 2-17　米蔵駐車場草取り作業 1

図 2-18　米蔵駐車場草取り作業 2

図 2-19　一輪車で運搬作業

長岡大学の担当の作業分担は、米蔵駐車場草取り作業は 4 年生：小海、長橋、3 年生：高橋、平山の 4 名が担当した。一輪車で草を運搬する作業は、3 年生：青山、佐藤の 2 名が担当した。

2021 年 11 月 27 日機那サフラン酒本舗の雪囲い作業に 3 年生 1 名が参加した。作業内容は、離れ座敷に雪囲いをする作業を行った。

2.4　ライトアップコンサート

6 月 5 日に摂田屋の機那サフラン酒本舗でシークレットガーデンコンサートが開催された。今回は、新型コロナウイルス感染症対策の為近隣住民の方だけの参加となった。そこでは、普段なかなか見ることのできない庭園と離れ座敷のライトアップが行われた。
嘉瀬遥さん、権藤真弓さん、渡辺優子さんの演奏を聴きながら、綺麗な景色を見ながら私たちを含め、招待されたお客様も楽しむことができた。

シークレットガーデンコンサートのボランティアでは、4 年生 4 名、3 年生 2 名計 6 名が参加した。コンサートのボランティアの活動内容は、招待客の椅子の設営、衣装蔵前の道、庭園、離れ座敷のライトアップ、コンサート受付を担当した。

図 2-20　コンサートの様子

2021 年 9 月 25 日日に機那サフラン酒本舗でライトアップコンサートが行われた。4 年生 6 名が参加した。作業内容は、会場設営、撮影、動画撮影の補助、後片付けを行った。

図 2-21　長岡大学・造形大学学生集合写真

2.5　まとめ

仁太郎は 1941（昭和 16）年に 78 歳で死去し、戦後は事業も衰退する。吉澤家の子孫は広大な敷地をなんとか守り続けたが、立派な石垣に囲まれた庭園や建物の管理までは手が回らず、閉ざされたまま荒廃し、地元の人たちもその存在を忘れかけていた。震災によって、鏝絵（こてえ）で彩られた土蔵の漆喰（しっくい）が崩れ落ちるなど、庭園全体がダメージを受ける。しかし、修復に掛かる費用は個人のレベルで工面できるものではなかった。
現地を視察した町おこしの会は、初めて近くで眺める鏝絵に感動し、「後世に残さねば」と文化財登録を目指す。2006（平成 18）年、鏝絵の蔵は国の登録有形文化財の指定を受け、補助金で無事修復された。

09 年からは、地域住民と大学生ボランティアによって庭園の草むしりや清掃が始まる。仁太郎の美学の詰まった魅力的な本舗全体が徐々に姿を現し、建物内部からは古い書物や美術品など貴重な資料も数々発見された。13 年には「機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会」も結成され、整備作業を進めながら、15 年からは休日限定で一般公開を開始。“日本一の鏝絵”との呼び声も高い土蔵が話題となり、全国から見物客が訪れるようになった。
荒廃し、地元の人たちも存在を忘れていた機那サフラン酒本舗がたくさんの方々の力によって少しずつ状態が改善され、現在に至り、状態を維持するためにボランティア活動が続けられているのだとボランティアに参加して感じた。

3.　イベントプロジェクト概要

3.1　フォトコンテストの概要

【内　　容】は、摂田屋に関するフォトコンテスト。【開催期間】は、２０２１年９月１日(水)～２０２１年１０月３１日(日)。受付方法】は、メール・郵送にて応募受付。【目標人数】は、　摂田屋フォトコンテストを計画段階の予定では、他で行っているフォトコンテストを参考にし、目標応募人数５０人とした。【審査発表】は、２０２１年１１月２２日（月）【主　　催】は、長岡大学生島ゼミナール。【協賛企業】　長岡市摂田屋地区の醸造業を中心とした企業。【後　　援】　一般社団法人 長岡観光コンベンション協会。【その他　】　入選作品賞の方に摂田屋の特産品を贈呈(酒・味噌・醤油)。
以上が摂田屋フォトコンテストの概要である。

3.1.1 イベント実施計画

イベントプロジェクトでは、摂田屋フォトコンテスト開催にあたりメンバーと話し合い、フォトコンテストの開催を 2021 年 9 月 1 日（水）～2021 年 1031 日（日）までの 2 ヶ月開催することになった。開催前、開催後の実施計画は以下のとおりである。

5 月	イベントプロジェクト開始 ・イベント内容を「摂田屋フォトコンテスト」に決定 ・事業計画書、スケジュール作成
6 月	作業分担分け ・ポスター作成係・SNS の告知内容決め・集計係決め
7 月	協賛、チラシ、ポスター配布の準備 ・協賛企業のリストアップ、アポイントメント取り ・ポスター配布先のリストアップ、アポイントメント取り
8 月	企業に訪問、チラシ、ポスター案完成 ・協賛企業に訪問し協賛して頂ける商品を決める ・チラシ、ポスター案が完成したためラクスルに発注
9 月	イベント開始 ・Instagram で SNS チームと連携し告知 ・チラシ、ポスターの配布
10 月	発酵トリップでの周知拡大 ・10 月 30 日に長岡市摂田屋地区で開催された発酵トリップに参加し、摂田屋フォトコンテストのポスターを掲示しチラシを配布
11 月	作品の集計・審査・結果を発表し景品配送 ・応募作品を集計し生島ゼミナール内で審査し受賞作品を決定 ・Instagram と受賞者へのメールにてフォトコンテストの結果を発表 ・協賛企業から協賛品の受け取り受賞者へ配送
12 月	展示会の開催 ・発酵ミュージアム・米蔵にて 12 月 1 日～12 月 15 日まで受賞作品の展示会を行う

表　3-1　事業計画書

3.2　協賛お願いの活動内容

フォトコンテストの景品に充てるため、入賞者に贈られる協賛品を募る活動を行った。協賛品依頼は、主に摂田屋で活動している店舗に訪問することにした。

イベントグループ内で店舗ごとに担当者を決め、電話またはメールで協力を募った。了承後、協賛品の相談で店舗に訪問を行うときには、ポスター案、企画説明を行いながら回った。ゼミナールでの協賛依頼活動は初めてであり不安であったが、快く協力していただける店舗が多く、当初の予想よりも多くの協賛品を提供いただくことができた。協賛品はフォトコンテスト終了近くに各自訪問し回収を行った。

今回、フォトコンテストに協賛頂いた企業と協賛品は以下である（表 3-2 参照）。

図表 3-2　協賛企業、協賛品一覧

	企業名	協賛品
1	株式会社星野本店	お醤油セット
2	株式会社越のむらさき	特性かつおだし醤油 450ml×3 本
3	吉野川株式会社	極上吉野川シリーズ各種 1 本
4	味噌星六	味噌 2 袋
5	長谷川酒造株式会社	720ml のお酒
6	機那サフラン酒本舗	720ml×2、300ml×4 本のお酒

図 3-3 協賛商品

3.3　摂田屋フォトコンテストポスターの作成

摂田屋フォトコンテストを行う際にポスターとチラシを作成した。 ゼミナールで初めて行うことになった為、ポスターとチラシは他のフォトコンテストを参考にしてデザインした。文字の大きさやフォント、配色にこだわり、全体的に見やすいようにした。また、裏面の記載事項に漏れがないようにゼミナール内で何度も確認を行った。そして、苦労した点は、ポスター内の写真の配置である。置き方によって印象が変わる為、写真の角度や並べ方には非常に苦労した。

図 3－4　摂田屋フォトコンテスト　表面

ポスター：表
摂田屋の作品や協賛品、協賛企業、
フォトコンテストの開催期間等記載

募集内容

開催趣旨

私たち長岡大学生島ゼミナールでは，摂田屋地区の魅力を発信するイベントをしたいと考え今回，摂田屋フォトコンテストを開催する運びとなりました。摂田屋地区は，幕末の戊辰戦争や第二次世界大戦の空襲の被害を免れ，歴史ある街並み，古くからの土蔵が残っています。

今回は「摂田屋の魅力を知ってもらいたい」との思いからフォトコンテストを実施することといたしました。

摂田屋の思いが伝わる写真を募集しております。選ばせていただいた写真は様々な形で摂田屋の魅力の発信に使わせていただきます。

あなたの「摂田屋」をお寄せください。

募集作品

・撮影者本人が撮影した写真とします。
（過去に撮影された写真でも他のコンテストなどで未発表の写真でも応募可能）
・カラー，モノクロ，縦横構いません。
・対象　どなたでも応募できます。（プロ・アマ不問）

賞

・優秀作品の方には摂田屋の特産品を贈呈します。

募集期間

２０２１年９月１日（水）～１０月３１日（日）

応募要領

・応募作品
単写真に限ります。
合成写真や著しく画像処理された写真は不可とします。
お一人様３点までとします。
応募にかかる費用は応募者の負担とします。
応募作品は返却しません。

応募方法

メール送信：規定容量１０MB以内
郵送：プリントサイズ：２Ｌサイズ
（インクジェット可）
※a)名前，b)年齢，c)応募者の住所，d)電話番号，e)撮影日，f)撮影場所(町名・番地等がわかる範囲で結構です。)
・メール，郵送の場合共に上記※を明記の上，ご応募ください。

提出先

・郵送の場合
〒940-0828 新潟県長岡市御山町８０－８
長岡大学生島ゼミナール フォトコンテスト係 宛
・メールでの応募の場合
e-mail:Ikusima.semi@gmail.com

お問い合わせ

長岡大学生島ゼミナール　フォトコンテスト係
e-mail: Ikusima.semi@gmail.com へメールでお問い合わせください。

審査発表

・入選者には１１月中旬頃に入選者のみに連絡します。※選考の経過及び結果に関するお問い合わせには応じることはできません。

入賞写真の取扱い

・著作権・所有権・使用権等について
・著作権は撮影者に帰属します。
・所有権・使用権は生島ゼミナールに帰属します。
・利用期限は無期限とし無償で利用できるものとします。
・写真の使用に際してはオリジナル画像を編集する場合があります。

その他の注意事項

・応募作品は応募者本人が撮影しすべての著作権を有しているものに限ります。
・写真に個人宅庭や人物が写っている場合は応募に際して必ず許可，承諾を得ておいてください。被写体が未成年の場合は親権者の承諾が必要です。
・選考の経過及び結果に関する問い合わせには応じられません。
・本コンテストへの参加にかかる損失の申し立て等について，主催者は一切責任を負いません。
・撮影の際にはマナーを守り，住民の方に迷惑が掛からないようご配慮ください。

・主催　長岡大学生島ゼミナール
・協賛
（株）星野本店，（株）越のむらさき，吉乃川（株），味噌屋六，長谷川酒造（株），機那サフラン酒本舗
・後援　一般社団法人 長岡観光コンベンション協会

図表３－４　摂田屋フォトコンテスト　裏面

ポスター：裏
募集内容や注意事項の記載

図表 3－5　ポスター・チラシ配布リスト

	A4	A3		A4	A3		A4	A3
星野本店	30 部	2 部	長岡大学	55 部	3 部	コンベンション協会	60 部	2 部
越のむらさき	40 部	3 部	保護者懇談会	100 部		長岡市役所	100 部	3 部
吉乃川	95 部	3 部	長岡農業高校	50 部	3 部	観光案内所	100 部	3 部
味噌星六	30 部	1 部	長岡造形大学	100 部	3 部			
長谷川酒造	30 部	1 部	長岡高専	100 部	3 部	計	1000 部	34 部
機那サフラン酒	60 部	1 部	長岡商業高校	50 部	3 部			

ポスターの配布先は図表 3－5 の通りである。星野本店をはじめとする摂田屋の企業様にポスター11 部のチラシ 285 部、長岡大学及び長岡大学で行われた保護者懇談会と長岡造形大学にポスター6 部のチラシ 255 部、長岡市内の高校にポスター9 部のチラシ 200 部、行政施設にポスター8 部の 260 部のポスター計 34 部、チラシ 1000 部を配布した。

3.4　フォトコンテストの取材

9 月 1 日（水）から摂田屋フォトコンテストが開催した。フォトコンテストを取り組んでいく中でなかなか応募がなかった。その中で新潟日報の高津記者から取材のオファーがあった。写真の画像は 2021 年 9 月 21 日（火）のゼミナールでの取材の様子である。生島ゼミナールのイベントプロジェクトを代表して 4 人がインタビューを受けた。大学生が主体となり行うイベントであるため、規模的には小さなイベントかもしれないが、貴重な宣伝として活用させて頂いた。そしてマスメディアに取り上げられたことでさらなる周知拡大へと繋がった。ゼミナール取材の記事は、翌週の 2021 年 9 月 28（火）の新潟日報朝刊に掲載された。（図表 3-6）記事の内容は、ゼミナールの昨年度、本年度の活動、について書かれている。摂田屋フォトコンテストの応募方法、審査方法、審査発表の方法、応募作品の郵送・メールでの応募方法が掲載されている。

来年度はイベントの告知の方法を長岡市外、県外の方に知ってもらえるような告知を行った方がいいと感じた。

掲載日：2021年09月28日，面名：長岡，記事ID：KIJ20210928_M001600100BK15001
(C)新潟日報社

長岡市摂田屋地区のまちづくりを研究している長岡大学（御山町）の学生たちが、まちの認知度アップと魅力発信を目指し、「第１回＃摂田屋フォトコンテスト」を企画した。授業を通して、歴史や街並み、まちの新たな動きなどに興味を持ったといい、「自分たちが気付かなかった摂田屋の魅力を写真で寄せてほしい」と呼び掛けている。

新たな魅力 切り取ろう

摂田屋発信 若い力で

長岡大生 写真コン 作品募集

摂田屋地区の魅力発信に向け、フォトコンテストを企画した長岡大の学生たち＝長岡市御山町

経済経営学部の生島義英准教授（58）のゼミは昨年度から、摂田屋地区で活動している。新型コロナウイルス感染症の現状を調べた。認知度不足が課題だとして、本年度は3、4年生17人が「イベント」「情報発信」のチームに分かれ、盛り上げに向けてできることを考えてきた。

住民との交流などに制約があったものの、地域に出向いたりと奮闘している。生島准教授は「学生が自主的に考え、実行に移してきた。来年度以降も継続できれば」と見守る。コンテストと並行し、情報発信チームの学生が街歩きの楽しさを紹介するホームページの制作や写真共有アプリ「インスタグラム」による発信を進める。

コンテストはイベントチームの8人が発案。長岡市出身の4年、高橋凌さん（21）は「高校時代までは行ったことがなかったけれど、歴史的な街並みや新しいカフェなど楽しみがある場所」と気付いた。リーダーの4年、小海友希さん（22）は「摂田屋について多くの人に知ってもらうきっかけにしたい」と説明する。

学生たちは協賛を募って摂田屋地区の企業を回ったり、ポスターやチラシ、会員制交流サイト（SNS）で広報に努めている。

写真コンテストは1人3点まで応募でき、プロ、アマは問わない。ゼミ生や地元関係者らが審査し、11月半ばに優秀作品を決定。協賛社のしょうゆや酒など摂田屋の特産品を贈る。優秀作品はSNSなどで広く発信する予定だ。

10月31日締め切り。住所、氏名、年齢、電話番号、撮影日と場所を明記し、〒940－0828、長岡市御山町808の8、長岡大学生島ゼミナール「フォトコンテスト」係へ郵送する。メールでも受け付ける。応募と問い合わせは、Ikushima_semi@gmail.comへ。

図表 3-6　2021 年 9 月 28 日新潟日報朝刊引用

3.5　フォトコンテストの結果

3.5.1　フォトコンテストの審査基準

フォトコンテストの審査方法は、生島ゼミナールの生島先生とゼミ生全員で審査を行うこととした。生島ゼミ生全員で審査を行ったのは、イベントプロジェクトだけで審査をした場合に事前に作品を見ているので偏りがでてしまうことを防ぐために生島ゼミ全員で行うことにした。審査基準は、摂田屋に対する思いや魅力を感じる作品に投票してもらうこととした。応募者が少ないこともあり、応募者の作品の中から一人につき一票までとし応募者ごとに優秀作品を決めることにした。

3.5.2　作品管理

作品の管理方法は、Excel で管理をすることとした。

①名前
②年齢
③住所
④電話番号
⑤撮影日
⑥撮影場所
⑦作品の受取日
⑧作品
⑨メールアドレス

以上の 9 項目を Excel で打ち込むことにより、応募者に景品を郵送する際にミスを出さないようにした。

3.6　応募結果

今回のフォトコンテストでは、計 10 名の２８作品の応募があった。目標は 50 名からの応募だったが今回のフォトコンテストでは遠く及ばない 10 名という結果となった。

年齢は、20 代～80 代と幅広い世代からの応募があった。応募していただいた方々は、地元の長岡市から新潟市など県内の様々な地域からの募集があった。

3.7　応募作品

応募の中で優秀作品に選ばれた 10 作品は以下の作品である。

図 3-7（田中　大輔　様作品）

図 3-8（永井　公貴　様作品）

図表 3-9（小杉　晴夫　様作品）

図 3-10（植木　元　様作品）

図 3-11（小杉　敏枝　様作品）

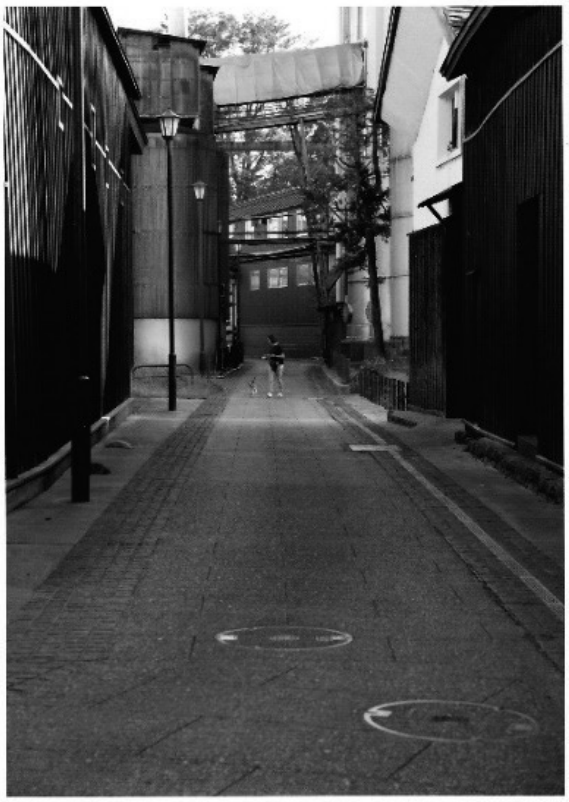

図 3-12（土田　正市　様作品）

図 3-13（生島　義英　様作品）

図 3-14（二國　楓加　様作品）

図 3-15（樋口　詩織　様作品）

図 3-16（星　美紀　様作品）

3.8　フォトコンテストでの反省点

コンテストを通しての反省点は 4 点ある。

一つ目が、応募要項に入選者のみに連絡をすると記載してあったが、個別に入選連絡をしていなかったことで応募者を混乱させてしまうこととなった。

二つ目が、景品の添え状には、「入選しました」や「入賞しました」などの記載がしてなかったこと。

三つ目が、Instagram での入選作発表の際に、名前を記載しておらずに写真を投稿してしまい素晴らしい作品に対する敬意が欠けてしまってしまったこと。

四つ目が、応募要項に作品のタイトルの募集を統一しなかったことにより作品名を付けて応募した人と作品名を付けずに応募した人でばらつきが出てしまったこと。

以上が今回のフォトコンテストでの反省である。

3.9　フォトコンテストでの考察

今回のフォトコンテストでは、多くの反省点が挙げられる。

一つ目は、開催するにあたり、他のフォトコンテストや展示会に行かなかったことである。今回フォトコンテストを開催するにあたって石川ゼミナールの去年のフォトコンテストを参考にすることにした。しかし石川ゼミの活動報告書を読んだだけであり直接肌で感じなかったことにより足りない部分や気づきがなかったのではないかと考える。そして、直接フォトコンテストを見学に行ったゼミ生はいなかったことにより反省点が多くなってしまったのではないかと考える。

二つ目は、Instagram で当選者発表をするため審査した応募作品を投稿したが名前が記載されていなかったことである。そして、その後の景品発送の際に添え状に「入選しました」や「入賞しました」などと明記していなかったことにより入選しているのか分かりづらくなってしまった。そして、後日応募者から分かりづらいとの問い合わせがあった。景品発送の前日に添え状を作成したことで時間に余裕がなくなってしまったことにより確認不足になってしまったことが原因だと考える。

三つ目は、作品名を付けて応募してくださった応募者と作品名無く応募してくださった方でのばらつきが出てしまったことである。ポスター、チラシで作品名まで募集していなかったので作品名を付けての応募が二名だけになってしまったのだと考える。

作業をする時間を取ることはできたが行動に移せなかったため、より良いフォトコンテストを開催しようとする意識がプロジェクト内での誤差が生じてしまった。このことが今回の応募数につながってしまったのではないかと考える。しかし、フォトコンテストについてご助言やアドバイスをいただくことができた。このご意見を大切に来年度に生かしていくことが大切だと考える。

４．摂田屋フォトコンテストの展示会

4.1　展示会を行うまでの経緯

4 月のプロジェクト計画時点では、コロナ禍の影響を考え、審査後の入選作品は情報発信プロジェクトが運営する Instagram でのみの発表予定であった。しかし 9 月の中間報告の際、平沢の方から「SNS 以外での発表はしないのか」とアドバイスを頂いた。プロジェクトメンバーと話し合い、徐々に新型コロナウイルスの感染拡大が収まりつつあることから展示会行うことを決定した。アドバイザーの平沢政明様と連絡を取り、展示の下見や展示に関する事を打ち合わせし、2021 年 12 月 1 日から 2021 年 12 月 15 日の 15 日間の展示会の詳細が決定した。

4.2　展示会の様子と展示の修正

2021 年 12 月 1 日から始まる展示会準備を、前日の 2021 年 11 月 30 日に作品展示や入選者の氏名掲示を米蔵にて作業を行った。平沢政明様と試行錯誤しながら入選作品やポスターの配置をした。

図 4-1 展示会準備後の様子

2021 年 12 月 4 日に行われた成果発表会の際、アドバイザーからの質疑応答で指摘があった。入選者の名前に“様”がなく紙の大きさに差があること、入選作品が額縁で保護されていないとのご指摘を頂いた。その後すぐにアドバイザーの平沢政明様にご連絡し、指摘された旨を伝え修正を行った。

修正した点一つ目は、入選作品を額縁で保護したことである。修正前は、入選作品をそのまま展示していたが、修正後は入選作品を額縁で保護し展示した。

修正点二つ目は、入選者の名前に“様”を付け、展示用のボードを統一の大きさに切り、その上に入選者の名前を貼り修正した。

図 4-2　展示修正後 1

図 4-3　展示修正後 2

図 4-4　展示修正後 3

4.3　展示会の改善と反省

改善点と反省点は、以下のとおりである。

展示会に使用したポスターは、展示会でしか使用しておらず、Instagram で展示会のポスターを発信し告知・宣伝を行った方がよかった。Instagram において展示会で使用したポスターを告知・宣伝を行っていればたくさんの方々が展示会を見に来てくれたかもしれないので、来　年度以降展示会を開催する場合は Instagram を活用したい。

展示会だけに限らず、活動計画を立てたのはいいが、行動が遅かった。そのためバタバタとし、余裕がなかった。改善策として、しっかりイベントや予定までの計画を明確にし、メンバーに共有するべきだった。

来年度展示会を開催する場合は以上の反省点・改善点に気を付け活動を行いたい。

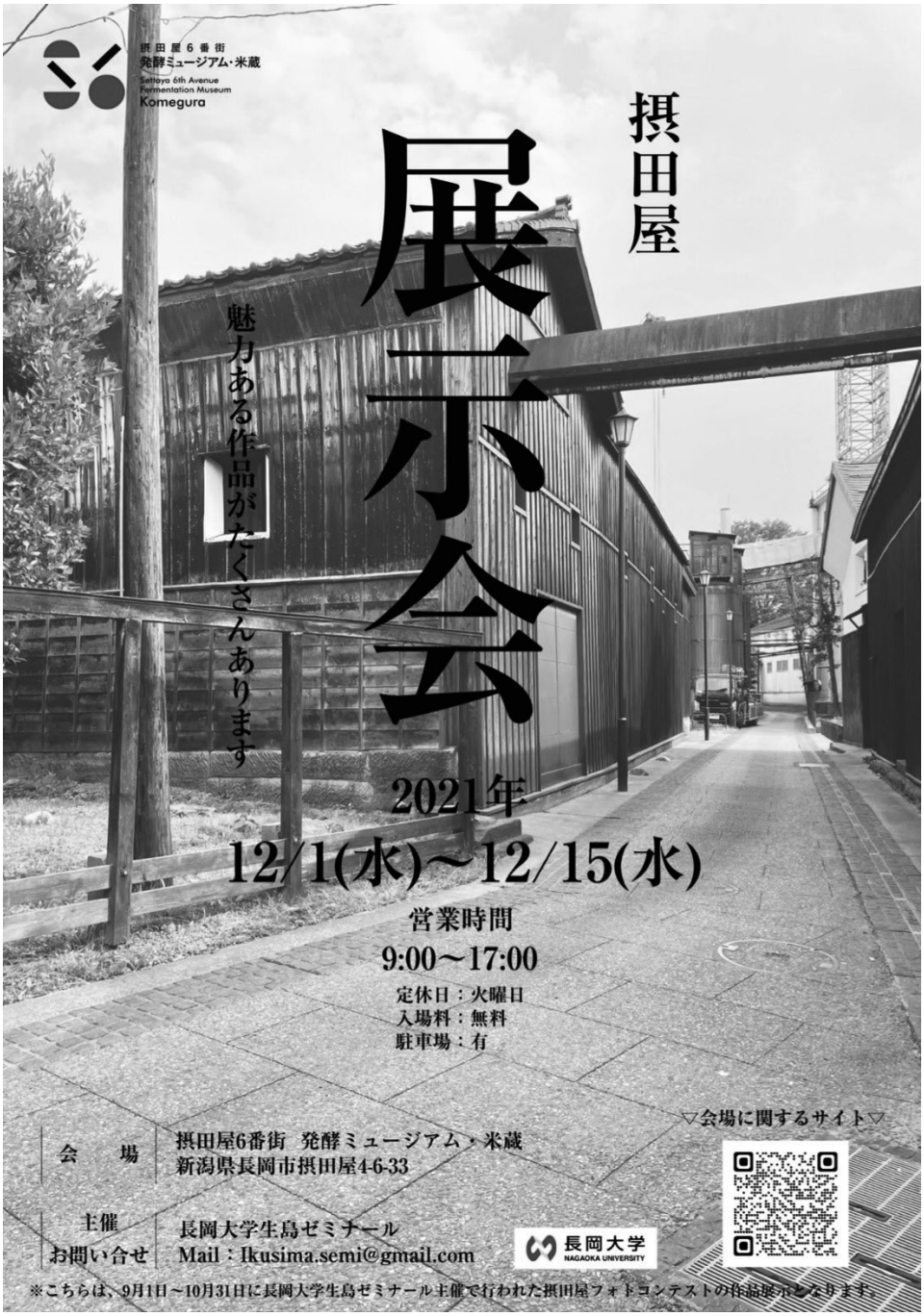

図 4-5：展示会に使用したポスター

5. おわりに

5.1 考察

今回の研究でわかったことは、活動を通して、イベントプロジェクトメンバー内でのスケジュールを立て企画運営の行うことの大変さを学ぶことができたことである。摂田屋フォトコンテストを開催するうえでどのような業務があるかを話し合い、役割分担を決め、事業計画書を作成し、活動してきたが、計画通りに進まなかった。イベントを企画運営する際には、イベント開催の日から逆算していつまでに何の業務が終わってないといけないからを明確にする必要がある。また、イベントを開催するにあたりどのようなイベントにしたいかイベントのイメージを共有することも必要である。

今回のフォトコンテストでは、課題が見つかった。

一つ目は、開催するにあたり、類似するイベントの現地調査が欠落していたことである。今回フォトコンテストを開催するにあたって石川ゼミナールの去年のフォトコンテストを参考にすることにした。しかし石川ゼミの活動報告書を読んだだけであり直接肌で感じなかったことにより足りない部分や気づきがなかったのではないかと考える。そして、直接フォトコンテストを見学に行ったゼミ生はいなかったことにより反省点が多くなってしまったのではないかと考える。

二つ目は、Instagram で当選者発表をするため審査した応募作品を投稿したが名前が記載されていなかったことである。そして、その後の景品発送の際に添え状に「入選しました」や「入賞しました」などと明記していなかったことにより入選しているのか分かりづらくなってしまった。そして、後日応募者から分かりづらいとの問い合わせがあった。景品発送の前日に添え状を作成したことで時間に余裕がなくなってしまったことにより確認不足になってしまったことが原因だと考える。

三つ目は、作品名を付けて応募してくださった応募者と作品名無く応募してくださった方でのばらつきが出てしまったことである。ポスター、チラシで作品名まで募集していなかったので作品名を付けての応募が二名だけになってしまったのだと考える。

作業をする時間は取ることをできたが行動に移すことができなかったので、より良いフォトコンテストを開催しようとする意識がプロジェクト内で誤差が生じてしまったことにより今回の応募数につながってしまったのではないかと考える。しかし、フォトコンテストについてご助言やアドバイスをくださる方がいることを大切にし、次に生かしていけたらいいのではないかと考える。

また、課題もたくさん見つかったが、収穫もあった。今回のイベント開催で得た最大のメリットとしては学生の力でどの程度のイベントを行うことができるかを知ることができた。

したがって、今回このような結果を得ることができた理由として
は、主に摂田屋地区の方々に協力を頂けたことが達成の要因であると考える。

5.2　反省点・改善点

反省点・改善点一つ目は、新聞に掲載していただくことで宣伝につながったが、その他の宣伝方法は、市外や県外の方々にも認知を得るべく工夫するべきであると感じた。摂田屋フォトコンテストのポスターの配布先は、星野本店様をはじめとする摂田屋の企業様、長岡大学をはじめとする 2 大学 1 高専、長岡農業高等学校、長岡市役所をはじめとする行政機関ですべて長岡市内にしか配布しなかった。そのため長岡市外や県外の方々にも認知してもらえるように宣伝を行う必要がある。

二つ目は、大枠の計画を立ててはいたものの、細かい計画までの詰めが甘くなり、伝達不足でグループ全員が計画を認知出来ていないことや認識のズレなどが生じた。line を通して随時報告することで改善。

三つ目は、協賛の交渉を行う際は相手の都合もあるので前もって早めの行動が必要であると感じた。協賛の交渉も含めフォトコンテストの計画を作成したが、その場合その場で対応してしまいまい早めに行動してやらなければならない業務が後回しになってしまった。早め早めの行動、逆算して計画書を作成し、業務の期限を明確にし、共有することが必要。以上が反省点・改善点である。

5.3　来年度に向けての活動計画案（反省点・改善点）

今年度スタートしたイベントプロジェクトでは主にボランティア活動とフォトコンテストを開催した。ボランティア活動では清掃ボランティアやライトアップイベントのお手伝いなどを行うことで摂田屋地区の企業や人々と密接な関係を築くことができた。今後もボランティア活動は積極的に参加していきたい。フォトコンテストでは津南町や柏崎市といった県内各地からご応募を頂き、少数の応募ではありましたが知名度を上げることができた。だがフォトコンテストを開催するのは初めてでしっかりとしたノウハウを覚えることをせず、専門知識がなくやり方や審査基準などで様々な不備があった。
また、作品の展示をした際にも作品の展示の仕方に問題があり指摘された。
今後はどのようなイベントをするにもまずは全体的な見通しを立て、スムーズに進められるようにしていく。

来年度に向けて、イベントプロジェクトはこのまま継続していくかは、未定である。フォトコンテストのノウハウは身につけることができたものの、地域活性化の観点からさらに貢献できるようなプロジェクトを考案していく。また新しいプロジェクト案として摂田屋地区の企業様との協力でタイアップした商品を作る事も活動計画案に上がっている。そのために摂田屋地区の企業を研究分析し、様々なアイデアを考案していく。

参考文献

(1)令和 2 年度学生による地域活性化プログラム石川英樹ゼミナール活動報告書、栃尾地域の PR による活性化：フォトコンテスト開催による栃尾地区のＰＲ
(2)令和 2 年度学生による地域活性化プログラム生島義英ゼミナール活動報告書、長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る～現状の把握と分析～
(3)醸造の町・長岡「摂田屋地区」：再発見された機那サフラン酒本舗の魅力、https://www.nippon.com/ja/guide-tojapan/gu900174/amp/?__twitter_impression=true
(4)建築マニア必見！ 長岡が誇る名建造物「機那サフラン酒本舗」とは？、https://na-nagaoka.jp/archives/1505
(5)幻の薬用酒「サフラン酒」を求めて長岡へ、創業者が財を投じた「日本一の鏝絵（こてえ）蔵」も必見、https://story.nakagawa-masashichi.jp/65824
(6)機那サフラン酒本舗公開スタッフマニュアル
(7)『新潟日報』（新潟）2021 年 9 月 28 日、朝刊、「新たな魅力　切り取ろう」

長岡大学　学生による地域活性化プログラム
各プロジェクト報告書

１．栃尾地区活性化に向けたにぎわい創出事業：にぎわい創出プロジェクト
～布の森 in 白昼堂堂～
石川英樹ゼミナール（1）

２．クイズラリー開催、SNS による栃尾ＰＲ
石川英樹ゼミナール（2）

３．十分杯を世界に知らせよう！―動画制作を通して―
權　五景ゼミナール

４．きもの文化村構想の試み
～十日町地域における新たな可能性～
喬　雪氷ゼミナール

５．オープンファクトリーで長岡を活性化！
栗井英大ゼミナール

６．グラスルーツグローバリゼーション
－草の根・地域からの人類一体化の推進－
広田秀樹ゼミナール

７．小学生のプログラミング教育を通した地域活性化活動
高島幸成ゼミナール

８．主体性を礎にした、ネットに頼らない情報の収集と課題の探索
武本隆行ゼミナール

９．デジタル・情報技術を活用した地域の財・サービスの情報発信
坂井一貴ゼミナール

10．コロナ禍における「まちの駅」の新たな交流・連携のあり方を考える
鯉江康正ゼミナール

11．長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る
～イベントプロジェクト～
生島義英ゼミナール（1）

12．長岡市摂田屋の魅力を高め、観光客を増やし、地域活性化を図る
～情報発信プロジェクト～
生島義英ゼミナール（2）

令和３年度　学生による地域活性化プログラム

生島義英ゼミナール活動報告書

【発行日】　令和４年３月30日
【発行人】　村山　光博
【発　行】　長岡大学
〒940－0828　新潟県長岡市御山町80-8
ＴＥＬ　0258-39-1600（代）
ＦＡＸ　0258-33-8792
https://www.nagaokauniv.ac.jp/